

ゆいプロジェクト ～課題解決に向けた新聞活用の取り組み～



新潟県立長岡向陵高等学校

1 N I E実践のねらい

実践2年目にあたり、本校の総合的な探究の時間（以下総合探究）に実施している1年生の課題解決学習に、N I Eの取組を融合する試みを実践した。

1年次では変化の激しい社会での対応力を養うことを目標に、地域の産官学の支援者から課題解決の手法を学び、グループで協働してその成果を提案する取組を行っている。そうした資質を育むことは、本校の教育目標である「聡明な判断」とも通ずる。具体的には8つの分野について支援者からミッションをいただき、4人1組をグループとして、分析→情報収集→仮説→検証→解決案→発表という課題解決学習を実践してきた。その活動の中で、情報収集および課題解決の手法として新聞の活用を学び、新聞記事を継続して読むことで、課題解決のヒントになるものを見つけることを期待した。



同時に、1つの分野のミッションを新潟日報社読者局に依頼し、同社の木村隆氏より、「事実と事実の関係性を複眼思考することで、オリジナリティーのある、情報収集の方法を提案せよ！」というミッションをいただいた。今回の実践報告会に、このミッションに取り組んだグループの中間発表会を当てることにした。理由として、情報収集および課題解決の手法として新聞の活用のみならず、各記事の事実と事実の関係性への着目、多面的に記事を比較分析することで複眼思考に至ることに加え、高校生ならではの情報収集方法の提案について思考させるとともに、発表会を通じて実践内容に様々な方々よりご指導いただくことで、生徒の今後の活動の充実によりつなげていきたいという狙いがあった。

2 本年度実践の概要

(1) 1年目の実践報告から

昨年度の報告から、生徒は新聞を読むこと自体に苦手意識があり、その背景として、時間をかけて、文章を読み取る経験不足を指摘されていた。一方で新聞活用の中で、「資料を適切に収集する力がついた」、「事実を正確に捉えることで、より具体的に適切に表現する能力をつけた」、「新聞を読む習慣をつけることで、生徒が社会を知るきっかけとなる」、「地域を知り、自分と結びつけるきっかけとなる」といった利点が見られた。

（２）本校生徒の実情

本校１年生の学びの特長として、小学校および中学校での活発な言語活動の授業等による土台があり、ペアワークやグループワーク、『学び合い』などの協働活動に意欲的に取り組み、タブレット端末などを利用した調べ学習やスライド作成なども苦手意識なく取り組める。一方で、語彙が乏しく表現内容が拙い、量のある文章を読む機会の不足、黙考の時間が少ないことから、思考が浅くなる傾向にある点が課題として見受けられる。

（３）上記（１）・（２）より（今年度実践の重点事項）

昨年の新聞スクラップについては、あらゆるメディアの情報が容易に検索できる昨今を鑑み、学習のプライオリティーを下げ、今年度はむしろ教科書に比べ、速報性と多様性のある新聞記事から自分たちが「気づいたこと」の背景や相互の関連を熟考し、表現することに重点を置いた。

また、総合探究の活動に組み込むことで活動機会を確保することを計画した。

３ 実践例

（１）前半：「身近な課題の解決案を考える」

自分たちの身近な課題について、グループで新聞等を使用した文献調査や、定量・定性調査などを主とする社会調査を踏まえつつ考察し、発表する。

（２）６月２９日（水）：創業ストーリー講演会

長岡市近隣事業所の３名の創業者の方を講師に招き、起業のきっかけや課題発見、サービス化などをテーマにお話をいただいた。

（３）７月２４日（月）：N I E 講座

新潟日報社から講師を招き、「新聞でサクサク読解力をつけよう」というテーマの授業を実施した。生徒は新聞の構成や新聞のレイアウトの基礎を学ぶとともに、「記事を読んで見出しをつける」、「事実と意見を分けてみよう」といったワークを行い、新聞の読み方を教わった。



「創業ストーリー講演会」の様子



「新聞の基礎理解」講座

(4) 7月～9月：情報収集・グループ探究・実践報告

夏休み中に生徒個人で考えた身近な課題を持ち寄り、グループで1つの探究課題へまとめていった。文化祭などを利用して、各グループで発表した。

主な探究課題

- ・この地域のバスの本数は増やせるのか？
- ・道に迷わないためには？
- ・授業中先生に当てられる確率
- ・脱スマホ依存
- ・家庭の電気代を減らすためには？



(5) 後半：地域の産官学の支援者よりミッションの発表・講義

10月4日（水）ミッション提示。新潟日報読者局様より

「事実と事実の関係性を複眼思考することで、オリジナリティーのある、情報収集の方法を提案せよ！」



ミッションを発表されたあとの着眼点

- ・事実と事実の関係とは？
- ・複眼思考って何？
- ・従来の情報収集の方法とは？
- ・どういう要素がオリジナリティーに？

「新潟日報読者局」からの講義

(6) 11月～：複数の新聞の活用・情報収集・100字要約

6紙を毎日、教室および渡り廊下に置き、複数の新聞を日々見比べて行くことにより、徐々に複眼思考について、自分たちなりの解釈を深めていった。また、100字要約などを継続させることで、生徒は記載内容から重要事項を取捨選択することに慣れていった。

【要約】100字要約してみて、気づいたこと

難しいと思ったけれど、全てを新聞の情報から抜き出すのではなく、言い換えをしながら自分の知っていることと使いながら新聞の中の大事な所を探していくのが大切だと思った。

【グループワーク】他者の意見から、新たな気づき

何を一番大事な部分として選ぶのか、必要な情報の取捨選択が難しくなったけれど、新聞の事実と意見の部分に気づくことで、より要約しやすくなるなと思いました。

100字要約の感想



(7) ミッション提供後の発表に至るまでの活動経過（総合探究の授業）

10/25 (水) 6 限	課題研究「グループ活動（情報収集）」8 分野の会場 ▷ ブレインストーミング（ミッションにまつわるキーワード） ▷ ミッションに関する情報収集
11/1 (水) 6 限	課題研究「グループ活動（情報収集）」8 分野の会場 ▷ これまでに収集した情報や校外学習で収集した情報などを持ち寄って整理する。 ▷ ミッション解決にさらに必要となる情報の洗い出し、統計資料・先行研究の確認。 ▷ ミッション解決のための調査方法や内容の検討
11/8 (水) 6 限	「講演＆ワークショップ」 ▷ ミッション解決ストーリー ▷ ミッション解決に必要な考え方など
11/15 (水) 6 限	課題研究「グループ活動（整理・分析、提案検討）」 ▷ これまでに得た情報やアイデアを、思考ツールを用いて整理・分析する。 ▷ 自分たちの提案を検討する。
11/22 (水) 6 限	課題研究「グループ活動（考察・まとめ・発表準備）」 ▷ 提案検討の続き ▷ スライドの構成検討（絵コンテ・コマ割り）→ スライド＆発表メモ作成
12/6 (水) 6 限	「講演＆ワークショップ」 ▷ オーディエンスを引きつけるパフォーマンスにするために
12/13 (水) 4 限 5 限 6 限	課題研究「中間発表会」 ▷ 発表：各グループ持ち時間 10 分（発表 8 分＋移動・準備 2 分） ▷ 4 限：発表会の流れ説明・評価シート配付（10 分） 発表①〔発表 8 分→評価シート記入・交代 2 分〕 →発表②→発表③（30 分） 前半 3 班に対して質疑・講評（15 分） ▷ 5 限：発表④→発表⑤→発表⑥（30 分） 後半 3 班に対して質疑・講評（15 分） 発表全体に関する総評（5 分） 中間発表会の終わりの挨拶（5 分） ▷ 6 限：評価シートを読み、各班で発表を振り返って次の段階への構想を練る。
12/15 (金)	▷ 発表スライドの提出 ▷ 発表による自己評価と他者評価からの気づきを提出

(8) 12月13日：発表の様子

①発表班のテーマ

- A班 「高校生が正確かつわかりやすい情報収集」
- B班 「フェイクニュースについて」
- C班 「日常の複眼思考」
- D班 「正確で最新の情報収集」
- E班 「確実な情報のつかみ方とは」
- F班 「適切な情報を得るために適切な情報収集の手法とは」

②C班の発表「日常の複眼思考」



2023年11月24日付け 毎日新聞

要旨

新聞によって注目の場所や重要性、記事の大きさなど、様々な点が異なっていることに着目し、より簡単に、正確な情報を得てほしいという思いから、「ひと月新聞」を作成したいと考えた。



1ヶ月に起こった出来事について話し合い、地元紙の新潟日報を中心に、自らの複眼思考を働かせて記事を検索し、オリジナルな新聞を作成する。授業や進路に活用でき、取捨選択する力が身につくこと、大学の総合型選抜対策、他者貢献にもつながることを期待する。

③E班の発表 「確実な情報のつかみ方とは」

様々な情報が入り混じる現代に、有効的に情報を掴む方法を知りたいという目的から、1つの事案（この場合はロシア・ウクライナ情勢）を主題において、以下の5つの多面的な視点分析をした。

ア 記事の共通点と違いを調べた結果、縦と横の両方の繋がりで考えている記事が多いことや世論の関心が低下すると、記事に載らない傾向にあることに気づいた。

イ 一つの記事に対して別の視点から見ることで、記事の中で削ることのできる文を探すことでキーワード入手が行いやすくなることや、食料支援や募金活動など自分たちの身近にできることを知ることができた。

ウ 新聞等、複数の情報メディアを使用することで、意見の違いや内容の違い、展開や主語の置き方、表記の仕方などに着目できた。また、それらを組み合わせることで情報の補完ができることに気づいた。

エ 新聞を2回読み、2回目にわからなかった単語を調べて読むことで、内容の理解度がより高まった。記事が強く印象に残り、自分の考えを持ちやすくなるという利点をあげていた。

オ 事実と意見に線を引きながら読むことで、多くの記事は事実と意見が交互(クッション型)に構成されていること、事実だけの記事や、意見が全体の4分の1しかない記事など、いろいろな特徴があることに気づいた。

以上のことから、情報収集で心がけたいことは、事実のように書かれている意見に注意すること、関連性のある情報との繋がりを考えること、自分なりの意見を持ちながら読むことの大切さを活動による気づきにまとめていた。

④生徒の取組の感想

- ・新聞から様々な方法で情報収集することができた。
- ・「ひと月新聞」のプロトタイプを考えるなかで、記事の配置や情報の取捨選択の難しさを強く感じた。
- ・地元の記事など、実際に出向いて、どのような視点で書かれているのかなど確認する必要性を感じた。

4 成果

7月24日に、新潟日報社の田村博文氏より「新聞の基礎理解講座」を受講し、新聞の構成や事実と意見の分類法などを教わった。10月4日には、新潟日報社の木村隆氏による前述のミッションの提供に加えて、インターネット、新聞、テレビなど、多くの情報源があり、それぞれの特徴や長所、短所を学んだ。

11月1日から学校に新聞6紙が届けられ、情報収集のスピードが加速した。事前に講習を受けていたことから、生徒は探究学習の情報収集において新聞に興味・関心を示し、昼休みや放課後に教室棟廊下に置かれた新聞を閲覧する姿が見られた、また、タブレット端末を用いて記事をスクラップノート化していった。

発表においては、当日は、20名を超えるNIE関係者の方々の前で、生徒は堂々と新しい情報収集のあり方や複眼思考の解釈について発表していた。生徒が自分たちの活動に自信をつける機会にもなったことに感謝申し上げたい。

研究協議会では、記事の出所を正確に記載する必要性や、各記事の横の比較はできているが、一つの報道がどのように変化していくかなど、時系列での縦の比較ができていない点、一部の記事のみで生徒が断定的に論じている点などの指摘があった。3月末の本発表に向けたブラッシュアップに大いに役立つ指導をいただいた。

活動を通して、生徒は多くの情報を得ることができ、様々な視点から考える契機となったと感じる。今回の新聞活用機会は、総合探究の取り組みや、この先の進路実現への大きな支えになってくれると大いに期待する。(金子 将人)

担当 NIE アドバイザー及び担当新聞通信社からの一言

1 担当 NIE アドバイザー

新潟県立三条高等学校 教諭 押木 和子



新潟県立長岡向陵高校の NIE 研修会と研究発表会に参加しました。生徒たちは新潟日報社の木村隆さんの講義を聞き、「事実と事実の関係性を複眼思考することで、オリジナリティーのある、情報収集の方法を提案せよ」というミッションを与えられ、グループごとに検討を繰り返し情報収集を行っていました。難解なミッションを解説し「フェイクニュースについて」「適切な情報を得るためにどのような手段で情報収集することが適切か」などのテーマを決めて、自分たちの問題として探究を進めているところが印象的でした。総合的な探究の時間の取り組みとして、実際に新聞記事を読み、記事比較をしたり、新たなメディアの開発を提案したり真摯に積極的にミッションに取り組んでおり、大変有効な活動でした。今後一層、信頼できる多くの情報を収集し、出典を明らかにして複眼思考を進めていくことを期待しています。

2 担当新聞・通信社

新潟日報社読者局未来読者推進室長 山田 孝夫



普段はインターネットでニュースや話題などを拾っている生徒が圧倒的な中で、生徒たちは新聞をどうやって活用して適切な情報を収集していくのかを分かりやすく説明してくれました。多くのグループは新聞各紙を読み比べ、その傾向や違いを理解し、事実と意見を見分け、ネット情報に潜むフェイクニュースの危険性などを訴えていました。1 カ月分の記事を生徒が選択し、「ひと月新聞」を作るなどといった提案も新鮮でした。

気になったのは、新聞各社の紙面を 1 日分だけ取り出して紙面の傾向や特徴を比較していたグループが多かったことです。新聞を時間軸で追いながら、新聞各社がニュースを日々どう伝えているのかに留意する必要があると思いました。言論の自由や世論と新聞の関わりについてももっと議論してほしかったです。ネット情報だけでなく、新聞を継続的に読むことで、メディアへの理解をさらに深めてもらいたいです。